総　務　委　員　会
文 教・建 設 委 員 会
健 康 福 祉 委 員 会
市 民 生 活 委 員 会

議案などは、各委員会に付託され、慎重に審査されます。
その経過と結果について、９月 18 日の本会議で各委員長から報告がありました。
ここではその概要をお伝えします。

健康福祉常任委員会

社会福祉事業、国民健康保険事業、医療・保健行政、介護保険事業、子供・青少年の育成

〈令和７年度一般会計決算〉

委員　重層的支援体制整備事業における相談実績は。

執行部　相談実績は11件あり、いわゆる8050問題やヤングケアラーなど、世帯の抱える課題が特に深刻化しているケースを扱っている。

委員　学童保育室指導員派遣において、指導員が不足した経緯と今後の対応は。

執行部　契約内容は７名の派遣契約であり、事前に人員の確保状況等も確認していたが、急遽、辞退が相次ぎ、年度当初の派遣者は１名。その後、４名となったが仕様を満たせず、令和７年度末で、契約解除。また、入札参加停止措置も実施。今後は、令和８年度の受託事業者に聴取するとともに、関係各課と協議して今後の予算計上に反映していく。

〈令和７年度市民医療センター特別会計決算〉

委員　訪問診療の実施状況と今後の見通しは。

執行部　令和７年度は内科医不足のため訪問診療を大幅に抑制していた。令和８年度より内科医の新規採用に伴い、徐々に訪問診療を増やす方向。



学童保育室のイメージ

市民生活常任委員会

市民生活事業、上下水道・河川管理事業、経済・環境事業

〈令和７年度一般会計決算〉

委員　青色防犯パトロールの運行状況は。

執行部　平日、日中帯は２台、深夜帯は１台が市内を巡回しているほか、防犯対策活動員による車両も加わり対応している。

委員　戸田橋花火大会の実行委員会補助金の減額理由は。

執行部　チケット売上や駐車場の新たな収入確保、委託料の抑制によるもの。

委員　共創のまちづくり補助金の申請者の負担軽減や決定までの迅速化については。

執行部　事務手続の簡素化や審査体制について見直しを行っている。

委員　引き続き、使いやすい補助金となるよう検討してほしい。

〈令和８年度一般会計補正予算〉

委員　北戸田駅公衆トイレ解体工事及び原状回復に係る補正予算について、経緯や今後は。

執行部　JR東日本との高架下使用賃借契約の終了に伴い10月に使用を停止するもので、原状回復工事の後、年度末までに用地を返還する。

委員　今後、にぎわい創出やイベント開催時に仮設・常設を含めて、トイレ機能を確保してほしい。



青色防犯パトロール車両

令和８年９月定例会　そこが聞きたい

一般質問



議員は、毎年3月、6月、9月、12月に開催される定例会で、市政全般に対し質問をすることができます。これを「一般質問」といいます。
今定例会では、22人が一般質問を行いました。ここに掲げたのは、その質問・答弁の大要で、質問者本人が執筆しています。
なお、各ページに掲載しているQRコードから、各議員の一般質問の録画配信映像をご覧いただけます。



そごう　拓也（たくや）議員

（政策 TODA）

録画配信

水害時の道路・車両対策

Q　水害時の道路・車両対策は。

A　浸水センサと職員で確認し、道路法に基づき通行を禁止する。美女木東地下道は冠水時に電光表示と赤色灯が自動点灯する。放置車両は協定でレッカー車を確保し移動、保管は原則公有地とする。道路啓開は緊急輸送道路から順に実施する。対応マニュアルは千葉豪雨の教訓を踏まえ改訂を検討する。

災害時のガス設備対策

Q　公共施設のガス対策は。

A　道路埋設管は耐震化が概ね進んでいる。震度５相当以上でガスメーターの安全装置が作動し供給を停止。ガス臭がないことを確認、元栓開放後、安全点検し復旧。ボンベの転倒防止は法定点検で安全確認。

小中学校のＡＩ推進

Q　小中学校のＡＩ推進は。

A　生成ＡＩガイドラインを改訂中。「ＡＩを学ぶ」「ＡＩを活用し学ぶ」双方を重視。校務DXも進める。



戸田公園駅の冠水被害



竹内（たけうち）　正明（まさあき）議員

（公明党）

録画配信

防災減災基金を活用し対策強化を！

Q　真夏の酷暑期に熊本地震が発生し、千葉豪雨は過去に例のない水害となった。この教訓を本市の防災減災対策強化の機会と捉えるべきだ。公明党は防災減災に特化した基金の必要性を訴え続け、私は平成30年12月定例会で防災減災基金の創設を提案。県内初の基金が設置され、新型コロナウイルス対応にも活用された重要な基金となった。異常気象の今こそ冠水地域や懸案箇所などへの対策を前進させるべきだ。防災減災基金をハード整備にも活用することを提案するが市の考えは。

A　積極的な検討をしていく。

子どもたちに食事と涼しい場所の提供を

Q　給食がなく、酷暑でもある夏休み期間中に、毎日食事と涼しい場所を提供する居場所をつくるべきと考える。

A　こどもの居場所ネットワーク事務局の社会福祉協議会に働きかけ、子どもたちの夏休み中の食の確保について、今後の検討課題として取り上げることを提案する。



流域治水に関する主な取組